

# PCT Information Vol. 1

監修: 東京医科大学八王子医療センター 特定集中治療部  
教授 池田 寿昭先生

細菌性敗血症の診断および重症度判定の補助や感染症治療の効果判定指標として国内外の注目を浴びているプロカルシトニン(PCT)を用いた細菌性敗血症の診断と治療モニタリングについて紹介します。



## 細菌性敗血症における感染症検査と治療

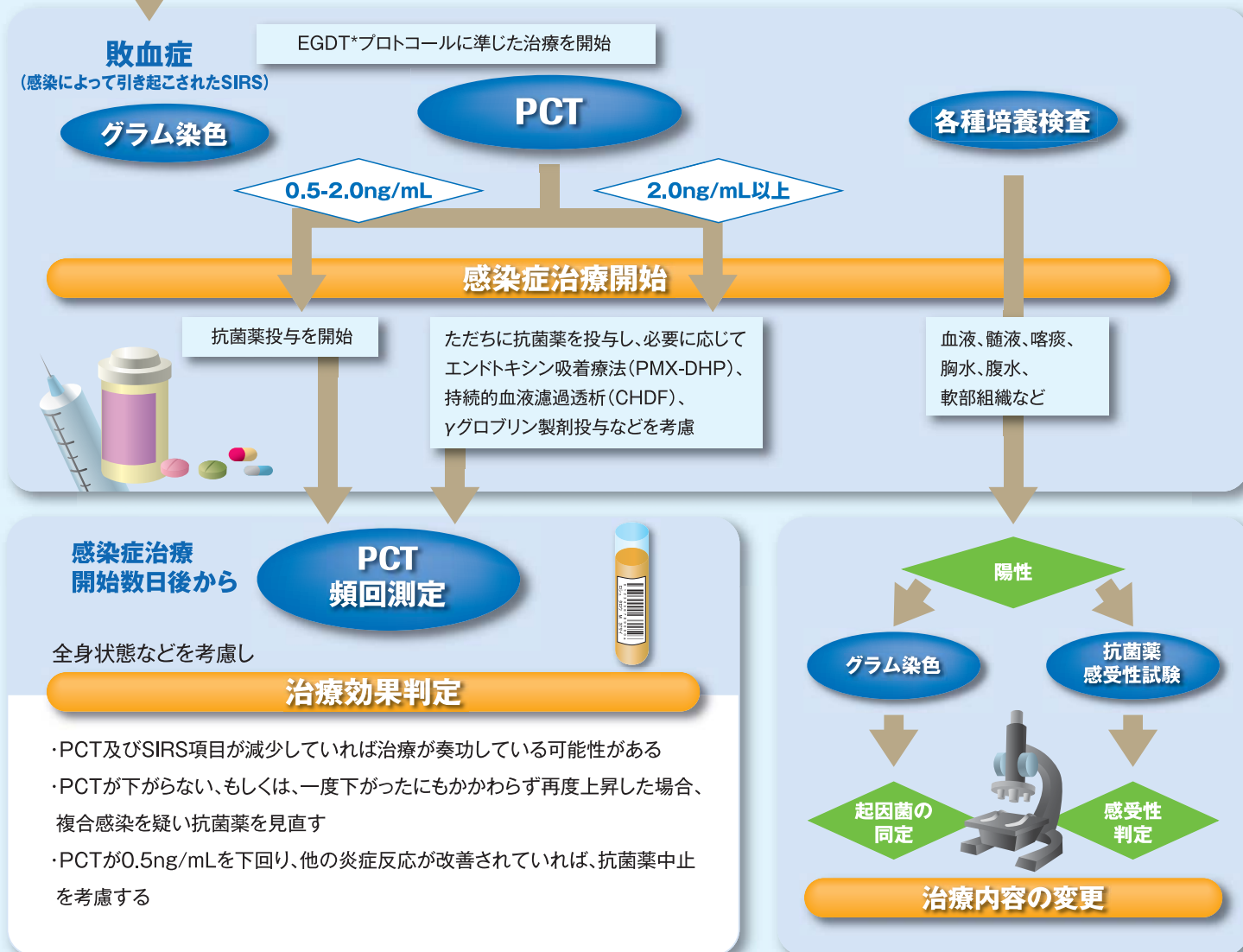
### 全身性炎症反応症候群(SIRS)の診断

#### 診断基準\*

- ①体温 >38℃あるいは<36℃
- ②心拍数 >90回/分
- ③呼吸数 >20 /分またはPaCO<sub>2</sub><32 Torr
- ④白血球数 >12,000/μLか<4,000/μLまたは>10%幼若球出現

\*①~④のうち2つ以上を満たす場合をSIRSと定義。高齢者、幼児では注意が必要。

### SIRSと診断

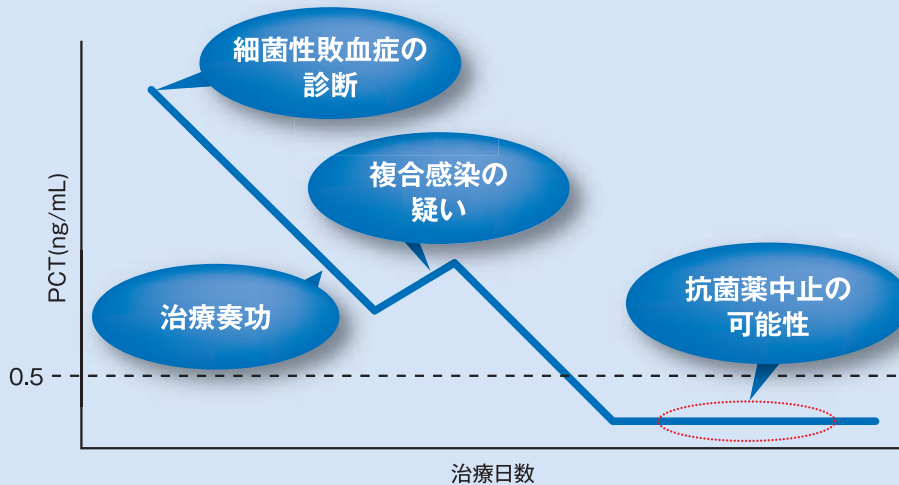


\*EGDT: Early Goal-Directed Therapy in the Treatment of Severe Sepsis and Septic Shock. Rivers et al., NEJM 345:1368(2001)



## PCTレベルと抗菌薬投与

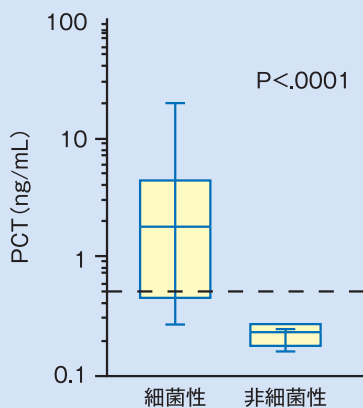
PCTは細菌性敗血症で高値を示し、そのレベルと敗血症の重症度は相関している事が知られています。さらに、経時的に測定することで、治療モニタリングや抗菌薬中止の指標としての利用が広がっています。



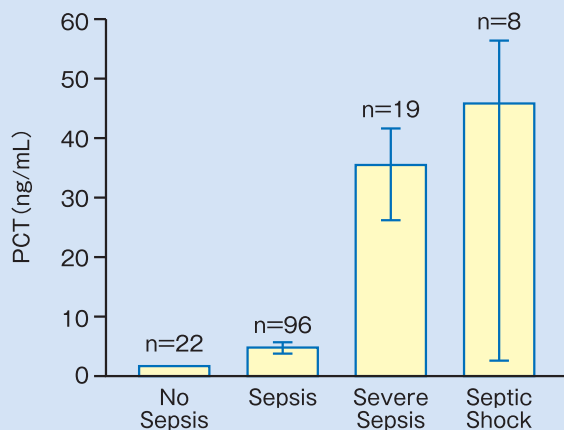
## 細菌性敗血症の鑑別診断と重症度判定に有用です

髄膜炎患者30名のPCTレベルは細菌性で有意に高く、非細菌性では全例カットオフ以下であった

重症度の上昇に伴いPCTレベルも上昇する



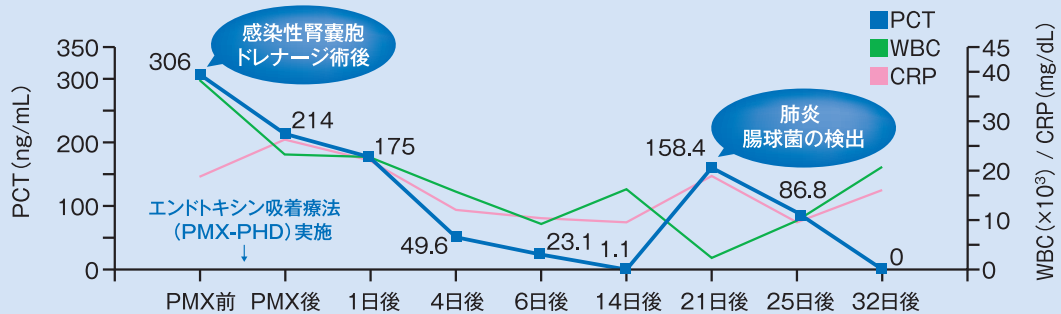
Schwarz et al, Crit Care Med 2000; 28:6



Zeni et al, Clin Intensive Care 1994; 5 (Suppl 2): 89

## 複合感染や耐性菌出現時のモニタリングに有用です

PCTが上昇したことで新たな感染が疑われ、肺炎と診断、早期に適切な治療が施され退院に至った症例



データ提供: 東京医科大学八王子医療センター

